

巻頭言



JABEE 認定制度と技術士受験

(社)日本技術士会北海道支部 副支部長
技術士 (建設/総合技術監理部門)

齊藤 有司

2004年(平成16年)4月から、JABEE(日本技術者教育認定機構)が認定したプログラムの修了者は、文部科学大臣の指定を受け技術士の第一次試験が免除されることになっております。国からも、科学技術創造立国の政策を推進する上からも、多くのJABEE認定プログラム修了者が技術士を目指すことが期待されております。

そもそもJABEE認定制度は、平成14年度にスタートし、以下の技術者教育プログラムを公表することで、そのプログラムの修了者が将来技術業等につくために必要な教育を受けていることを社会(世界)に公表することでありました。

- 1) 教育プログラムで技術者教育の質の保証が確実になされているかのどうかの確認
- 2) 保証されている水準が定められた認定基準以上かどうかの審査

つまり、技術に関する世界に通用する技術者の育成を行うことにより、将来のプロフェッショナル技術者(技術士等)への道を開こうとするものであります。現在、この認定基準をクリアした課程は、346に及び、その卒業生は累計で7万人になろうとしております。そして、今後も1万3千人/年の割合で増加していくと推定されております。道内でも、既に北大・室工大・北見工大・北海学園大・道内工専等、8校がJABEE認定を取得しております。

問題はここからです。つまり、認定校の卒業生が、修習技術者となり将来(最短で4年後、修士は2年と換算)技術士二次試験を速やかに受けてくれるか

どうかなのです。ここがうまく機能しなければ、この制度は、大学や工専の差別化に使われるだけだと思います。これでは、本来のプロの技術者(技術士等)の増加には繋がりません。事実、JABEE課程を終了した卒業生がなかなか技術士二次試験を受けてくれないようです。因みに、平成19年度は25名(受験者の0.1%)でありました。もちろん、制度スタート6年、二次試験免除制度も4年を過ぎたばかりであり、今後、修了者が大量に受験されることを期待しており、そうなれば、問題ありませんが…。

ここきて、日本技術士会は、一次試験受験者の大量の落ち込みに苦慮しております。平成15年度に5万6千名いた受験者が平成19年度には2万7千名にまで減少し、この間、二次試験受験者は微増となっています。この事は、技術士会の財政にも深刻な影を落としてきております。

そこで、JABEE課程の在學生及び教員を対象に、技術士取得への理解を高めていただくと共に、二次試験受験者の拡大を目的として、課程校への説明会を実施強化することになりました。今後、各課程校には、本部から説明会開催のお願いを行い、派遣要請に応じ支部も協力し説明委員を派遣することになりました。この説明会が効果を挙げ、二次試験受験者の拡大に繋がれば、多数の技術士を輩出することが可能となります。もちろん、通常の一次・二次試験受験者の拡大にも力を入れてゆかなければならない事は、言うまでもありません。